

現場が主役 未来を 見据えたメーカーのCSR

株式会社タムロン

(株)タムロンは見沼区に本社がある世界的光学機器メーカー。同社のCSRは世界標準環境規格ISOの取得から始まった。その後、2007年にCSR推進室を設け、海外事業所も含む社員参加のCSRプロジェクトを立ち上げた。

CSR推進室を設置

メーカーとして環境配慮型の設計・製造、一般ゴミや産業廃棄物の発生抑制、環境リスクマネジメントによる有害物質の対策などと平行して地球温暖化防止や環境教育なども行っている。地球温暖化



近隣の小学生が工場見学に。化学物質の分析室見学の様子。

防止のために、社内のCO₂排出量の削減にも積極的に取り組む。2007年までに社内のCO₂の把握方法を確立した。2008年度から具体的に削減に取り組む予定。

特徴的なのは、2004年からはじめた環境報告書(のちCSR報告書)を、コンサルタントにまかせることなく、社員自らの言葉でまとめて発行している点だ。「メーカーですから。三現主義*にもとづき、机上で考えるのではなく、現場の社員一人ひとりが主役となってCSRをすすめています

【株式会社タムロン】

住所：さいたま市見沼区蓮沼1385 電話：048-684-9190 (CSR推進室直通)

従業員数：1381人

す」と同社CSR推進室室長の安田信一さんは話す。

社内ばかりでなく、2007年9月に行われた「さいたまカープリーダー2007」にも参加。このイベントは過度にクルマに依存した生活様式を見直す機会として開催されるもので、当日は経営者も含めて9割の社員が公共機関で通勤し、マイカー通勤を自粛したという。

胸にCSRのプレートを

また同社では、社員全員が名札のほかに、CSRの行動宣言が書かれたプレートに胸に付けて、意識向上を計っている。胸にプレートを付ける企業はよくあるが、「売上」「合理化」などの企業利益を



環境報告書からスタートした報告書づくりは、2008年版ではCSR報告書に発展。



地域環境教育で、熱心に語るCSR推進室スタッフ。

中心とした目標である場合が多い。しかし、同社の場合、CSR推進室がつくったCSR

啓発のプレートという点に、その本気度がうかがえる。実際、担当スタッフはCSRを大学で学んだり、環境問題に関心の高い社員が配置されている。同室・三澤幸大さんは、「社内でCSRを展開するのは大変で

すが、会社全体を見渡せるのでやりがいがあります」と語ってくれた。今後はもっと地域貢献活動に取り組みたいと考える同社では、2008年は「タムロン鉄道風景コンテスト」を開催し、本業につながる写真で鉄道のまち・さいたま市を盛り上げる。

＊三現主義：現場・現物・現実の三つの現を重視するマネジメント。

取材協力

CSR推進室 室長 安田信一さん、同室 三澤幸大さん、薄井芳恵さん



活動が育つ、環が拡がる 埼玉に根ざす環境財団

財団法人 サイサン環境保全基金

〔財〕サイサン環境保全基金は、埼玉県域での環境活動を支援している。設立は1998年4月。前年

に京都議定書が採択されるなど、環境に対する社会的な関心・意識が高まっていた時期に「小さくてもよい、社会貢献できる財団を作りたい」という(株)サイサン創業者・川本二郎前会長の遺志のもと、川本宜彦現会長が「環境問題」に焦点をしばり設立。同基金は、その設立にあたり同社が寄付を行い、以後、毎年、同社とそのグループ企業各社からの寄付を原資として活動している。

〈育てる〉&
〈拡げる〉視点

同基金では、助成するにあたって2つの視点を大切にしている。ひとつは、環境問題に取り組む市民団体を〈育てる〉という視点。「助成を行う団体に対しては、必ず(団体が自立すること) (次世代への継承をすること) (記録を残すこと)」を考えてやって下さいと注文をつけるようにしています」と同基金事務局長の藤井泰光さん。財団にいつまでも頼るのではなく、団体の自立を支援するため、近年



浦和・水と緑を楽しむ会(さいたま市桜区)の河童まつり。

浮野の里・葦の会(加須市)のあやめ祭り。

【財団法人 サイサン環境保全基金】

住所：さいたま市大宮区桜木町 1-11-5 KSビル
電話：048-643-1192

は、団体に自らの活動を「自己評価」してもらったり、事務局スタッフが現場に出向いたりしている。もうひとつの視点は、(へ上げる)。助成する団体同士が互いに横の連携を深めることで、一団体への助成が更に波及効果を及ぼすような気配りをしている。例えば耕耘機を購入したいと相談を受けた団体に、過去に助成した購入済みの団体を紹介したり、助成金の授与式では、過去の助成団体も含めた懇親会を行うなど、新たなつながりをつくる機会も設けている。このような細やかな気配りは、まさに地元根ざした同財団ならではの**環境を支え活動に寄り添う**

環境保全のための様々な機材の購入、啓発のための冊子や通信の発行費用、場合によっては、土地利用のための多額な費用……環境

をテーマにした市民活動は、慢性的に資金難だ。自然豊かな環境を維持、あるいは回復するための活動にお金を出す社会的な仕組みは、未だに少ない。その中で、お金を



綾瀬川を愛する会(川口市)による粗大ゴミの引き上げ作業。

出すだけではなく、活動に寄り添い市民とともに歩む財団の存在効果は、埼玉の環境に表れ始めている。



見沼ファーム21(さいたま市見沼区)の見沼田んぼ体験水田。

埼玉県内の民間企業等による市民活動への助成金



エココロ基金助成
生活クラブ生活協同組合(桜区)

公益信託むさしの緑の基金
(株)武蔵野銀行(大宮区)

さいたまコープ市民活動助成金
生活協同組合さいたまコープ(南区)

ドゥコープ市民活動支援金
生活協同組合ドゥコープ(蕨市)

取材協力

事務局長 藤井泰光さん(写真右)、次期事務局長(2008年4月1日就任) 中畝義明さん(同左)(取材2008年3月25日)



さいたまCSR大調査

結果のご報告



みかんプロジェクトでは、2007年12月に「さいたまCSR大調査」を実施し、60社にご回答いただきました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

Q1

近年、CSRは重要な企業活動のひとつになってきていますが、貴社のCSR・社会貢献活動の現状に最も近いものを選んでください（○はひとつ）

- | | |
|--------------------------------------|-----|
| 1. CSR活動に具体的に取り組んでいる | 48% |
| 2. CSRの必要性はわかるが、何をすればよいのかわからない | 25% |
| 3. 今後CSRに取り組みたいが、人手やコストがかかるので現状では難しい | 13% |
| 4. 特にCSRの必要性を感じていない | 5% |
| 5. その他 | 9% |

Q2

「Q1」で「1」と回答した方にお聞きします。貴社で取り組んでいる活動について、あてはまるものに○印（複数可）をおつけください。

- | | |
|---|-----|
| 1. 寄付・協賛金・商品の寄贈（例：地域の行事の協賛、店内募金ボックスの設置など） | 20社 |
| 2. 環境対策・環境保全（例：里山保全活動への参加、環境体験学習の場を提供など） | 15社 |
| 3. 従業員雇用への配慮（例：障がい者を積極的に雇用、仕事と子育ての両立支援など） | 11社 |
| 4. 場所提供（例：会議室をNPO等に開放、店舗の一角を地域の情報交換の場になど） | 9社 |
| 5. バリアフリー化（例：障がい者や高齢者に配慮した店舗づくりなど） | 7社 |
| 6. 仕入れへのこだわり（例：地元生産者との連携など） | 5社 |
| 7. 技術支援（例：菓子工房が福祉作業所を訪問して菓子づくりの技術指導など） | 1社 |
| 8. その他 | 9社 |

お忙しい中、ご回答いただきありがとうございました。

【1. CSR活動に具体的に取り組んでいる】とご回答いただいた企業 29社

イオン浦和美園店
 (株)イタバシ
 風間建築事務所
 金子桂子税理士事務所
 (株)亀の湯コミュニティ
 (株)関東物流サービス
 (財)サイサン環境保全基金
 生活協同組合さいたまコープ
 埼玉トヨペット(株)
 (株)埼玉りそな銀行
 シン建工業(株)
 スワンベーカーリー北浦和店
 須崎行政書士事務所
 (株)タムロン
 (有)中新商事

(有)中央サービス
 東京ガス(株)埼玉支店
 (有)西橋商事
 (有)ニック 趣味のギャラリー
 日本コンピューター株式会社
 (株)パレスエンタープライズ
 (有)ファンシーフラワー工房
 富士ゼロックス埼玉(株)
 毎日興業(株)
 マルカミ藤倉(株)
 宮原西口商工会
 (株)森島工務店
 (有)八百オートモービル
 (株)ラダーススポーツ

回答例

(株)森島工務店さんの場合
 <具体的な内容>

- ・「南浦和コミュニティフロント」という地域のサロン活動への場所提供
- ・住まいの講座の開催等
- ・埼玉県産木材住宅の推進

取締役の森嶋修さんに
 電話でできてみました。



地産地消がいいことだからというよりは、埼玉で育った木材は、埼玉の気候に適しやすいんですね。



目的別 市内相談窓口リスト

地域のために寄付したい

以下の基金への寄付は、企業法人の場合、寄付金の全額が法人税法の損金扱いにできます。

基金名	主な支援内容	連絡先
さいたま市ふれあい福祉基金	民間福祉団体及びボランティア・NPO団体の地域福祉推進活動を支援。	さいたま市福祉部福祉総務課 ☎048-829-1254
赤い羽根共同募金	地域の福祉活動を支援。	社福) 埼玉県共同募金会 ☎048-822-4045
シラコバト長寿社会福祉基金	県内の民間の保健福祉活動、チャレンジする障がい者の支援などを行っている。	埼玉県福祉政策課 ☎048-830-3223
さいたま緑のトラスト基金	県内の自然や貴重な歴史的環境を保全する「トラスト運動」の支援。	埼玉みどり再生推進室 ☎048-830-3150
埼玉県文化振興基金	県民の自主的な文化活動への支援。	埼玉県文化振興課 ☎048-830-2879
埼玉県NPO基金 (埼玉県特定非営利活動促進基金)	県内NPOの活動を支援。具体的な活動分野や団体の希望もできる。	埼玉県NPO活動推進課 ☎048-830-2828

NPOなどの市民活動団体と連携したい

以下は、市民活動支援を目的として、行政・企業・NPO等の協働を推進している団体です。

団体名	主な活動内容	連絡先
さいたま市市民活動サポートセンター	NPO・ボランティア等を支援する公設の施設。	浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階 ☎048-813-6400
社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会	ボランティア活動に関する情報提供をしており、各区に事務所がある。	☎048-834-3133
埼玉県ボランティア・市民活動センター (埼玉県社会福祉協議会)	企業の資源を市民活動団体につなぐ「市民活動資源サポートシステム」を運営。	☎048-822-1192
NPO法人NPOさいたま	いろいろな専門家が集まり、NPOの設立・運営支援など様々な活動を実施。	☎048-814-1814
NPO法人NPO埼玉ネット	共同オフィス、県内ネットワーク、全国センターとの連携によるNPO支援。	☎048-714-0501
NPO法人さいたまNPOセンター	県内の市民活動間のネットワーク、情報収集、活動交流や学習の機会を提供。	☎048-811-1666
NPO法人市民活動情報センター・ハンスオン! 埼玉	CSRや助成金担当者とNPOとのネットワークを支援。	☎048-834-2052
NPO法人市民ボランティアネットワーク埼玉	市民・行政・企業・団体のネットワークを支援。通称：いもづるネット。	☎048-822-2548 (市民文化センター内)

*本書の作成にあたり、下記の文献を参考にさせていただきました。

- 「CSR動く意味を問う」(日経CSRプロジェクト編、日本経済新聞社、2007年2月)
「中小企業の社会的責任経営」(NPO法人環境管理システム研究会編、西日本新聞社、2008年2月)
「CSR入門」(岡本亨二著、日経文庫、2004年12月)
「経営者の条件」(大沢武志著、岩波新書、2004年9月)
「社会起業家～社会責任ビジネスの新しい潮流」(斎藤慎著、岩波新書、2004年7月)
「NPOマネジメント52号 特集:NPOの社会責任」(IHIOE発行、2007年12月)
「企業の地域社会貢献ガイドブック」(埼玉県・埼玉県コミュニティ協議会、1999年3月)
「地域密着型企業社会参加活動事例集」(財団法人さわやか福祉財団編集・発行、2006年3月)
「企業の社会貢献活動事例集保健福祉分野を中心に」(東京都社会福祉協議会、2007年3月)
「好きなまちで仕事をつくる」(NPO法人ETIC.編、2005年11月)
「いい会社をつくりましょう」(塚越寛著、文屋、2004年7月)
「NPO・ボランティア用語辞典」(大阪ボランティア協会編集、中央法規、2004年4月)
「地球温暖化/人類滅亡のシナリオは回避できるか」(田中優著、扶桑社新書、2007年6月)
「おカネで世界を変える30の方法」(田中優+ASEEDJAPANエコ貯金プロジェクト編、合同出版、2008年1月)
「TSR情報2008新春特集号 埼玉版」(㈱東京商工リサーチ埼玉支店、2008年1月)

スタッフ

【表紙・ロゴデザイン】

アートディレクション:近藤忠/ ㈱近藤忠デザイン事務所

【本文】

デザイン・DTP:安藤順

取材・編集スタッフ:

安部邦昭、大久保幸子、岡野由美子、佐藤裕、長岡素彦、
西川正、原田昌悦、吉田理映子、若尾明子

【みかんイラスト】吉田理映子

【協力】さいたま商工会議所、(財)さいたま産業創造財団

発行日●2008年3月31日

発行元●さいたま市 市民局市民部 コミュニティ課市民活動支援室
〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階
TEL:048-813-6403

企画●NPO法人 市民活動情報センター・ハンズオン! 埼玉
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂2-10-6
TEL:048-834-2052
URL: <http://www.hands-on-s.org/>

印刷●アサヒ印刷株式会社

※本事業は、平成19年度さいたま市市民提案型協働モデル事業として、NPOが企画したアイデアを協働で実施するもので、NPO法人市民活動情報センター・ハンズオン!埼玉に委託しています。



みかんプロジェクト

みらいの かいしゃ かんがえる